

2009.3.14



没後200年－ハイドン特集 第2回



プログラム

今年没後200年を迎えたオーストリアの大作曲家ハイドンの特集する第2回目です。今回はヴァイオリニストで音楽ブローカーであったザロモンに招かれて渡英した際書かれた最後の12の交響曲、通称ザロモン交響曲の中から、打楽器をを巧みに取り入れた軍隊的な楽想から、「軍隊」とよばれる第100番と最後の交響曲にふさわしい充実した内容を持つ作品への敬意を表する形で「ロンドン」と名付けられた第104番をお聴きいただきます。このジャンルの代表的な名曲であるチェロ協奏曲第2番、若々しく澁刺としたピアノニズムが魅力的なピアノ協奏曲。また、ピアノ三重奏曲やモテットもハイドンの違った魅力を感じ取ることが出来る作品です。第1回目の特集と合わせて、ハイドン再評価のきっかけになればと思います。

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン (1732~1809): 交響曲第100番ト長調Hob.100 “軍隊” 全曲

エフゲニー・スヴェトラノフ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
(1989. 3. 5 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

モテット “無益な悩みにとらわれて” (オラトリオ “トビアの帰還” より)

ディートハルト・ヘルマン指揮南西ドイツ放送交響楽団
マインツ・バツハ合唱団

(1982.6.6 シュヴァルツアツハ大聖堂でのLive) 【米倉ライブラリーから】

ピアノ協奏曲ニ長調Hob.11 ~ 抜粋

マルタ・アルグリッチ (ピアノと指揮) ロンドン・シンフォニエッタ
(1983/ロンドン)

*** 休憩 ***

チェロ協奏曲第2番ニ長調op.102 ~ 抜粋

クレメンス・ハーゲン (チェロ)
マルチエツロ・ヴィオッティ指揮サールブリュッケン放送交響楽団
(1994. 2. 11 サールブリュッケン、コンGRESサールでのLive)

ピアノ三重奏曲第31番変ホ短調op.101 ~ 第1楽章

アンドラーシュ・シフ(ピアノ) / 塩川悠子(ヴァイオリン) / ボリス・ペルガメンシコフ(チェロ)
(1994. 9 ウィーン・ムジークフェライン・ブラームスサール/DECCA盤)

交響曲第104番ニ長調Hob.104 “ロンドン”

~ 第1楽章から第4楽章(第2、第3楽章抜粋)

リッカルド・ムーティ指揮バイエルン放送交響楽団
(2003. 3. 7 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive) 【米倉ライブラリーから】